

平成13年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録から)

財団法人 尾瀬保護財団

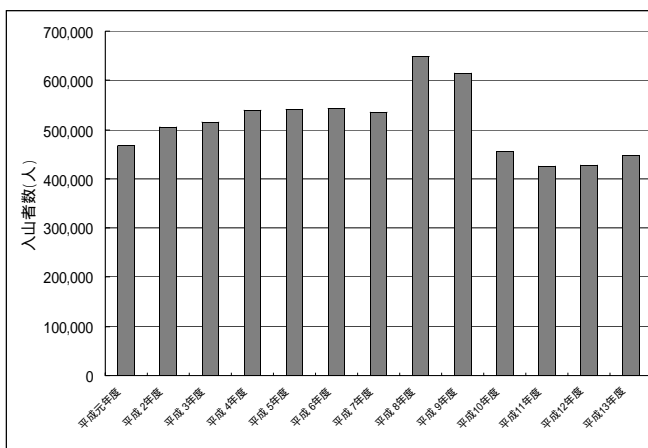
目 次

1	入山者数の状況	1
2	傷病事故の発生状況	1
(1)	年別発生状況	1
(2)	地域別発生状況	1
(3)	原因別発生状況	2
(4)	シーズン別発生状況	3
(5)	月別発生状況	3
(6)	年齢別・男女別発生状況	3
(7)	傷病者の居住地別発生状況	4
(8)	グループ人数別発生状況	4
(9)	傷病事故の通報状況	4
3	救助活動	4
(1)	救助隊出動状況	4
(2)	ヘリコプター活用状況	5

1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は5月大型連休後から10月中旬までであるが、同期間で環境省が各登山口に計測するセンサーを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、平成元年から平成6年まで徐々に増え続けてきた入山者数は、平成8年の約65万人をピークにして減少傾向に転じ、平成元年度の計測以来、最低の記録となった平成11年度と比較し、微増（約2万人）となった。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5
平成12年	428,446	100.6
平成13年	448,041	104.6



尾瀬の入山者数の推移(環境省のデータから作成)

2 傷病事故の発生状況

(1) 年別発生状況

平成13年度に尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター(群馬県より管理受託)、尾瀬沼ビジターセンター(環境省より管理受託)職員が出動した傷病事故は、46件発生した。

年度	区分	発生件数 (件)	遭難者(人)			
			死亡	行方不明	負傷	計
8年度		16			16	16
9年度		33	2		31	33
10年度		49	4		45	49
11年度		55	1		54	55
12年度		70	2		68	70
13年度		46			46	46

(2) 地域別発生状況

地域別では大江湿原・沼北岸での事故発生が17件(37.0%)と最も多く、そ

その他には特に目立って多い地区はみられず尾瀬ヶ原、尾瀬沼南岸、沼山峠～尾瀬沼、燧ヶ岳など各所で数件ずつ発生している。

地域別	区分	発生件数 (件)	発生 比率	遭 難 者 (人)			
				死亡	行方不明	負傷	計
鳩待峠～山ノ鼻		3	6.5			3	3
尾瀬ヶ原		6	13.0			6	6
三条ノ滝		0	0				
大江湿原・沼北岸 (VC周辺を含む)		17	37.0			17	17
尾瀬沼南岸		5	10.9			5	5
沼山峠～尾瀬沼		4	8.7			4	4
大清水～尾瀬沼		0	0				
尾瀬沼その他の地域		2	4.3			2	2
燧裏林道		0	0				
アヤメ平		3	6.5			3	3
至仏山		2	4.3			2	2
燧ヶ岳		4	8.7			4	4
合 計		46	100.0			46	46

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、依然として木道上での転倒事故が52.2%と最も多く、木道整備区間が多い尾瀬地域の特徴を示している。このほかの特徴としては、道迷い(3件)が挙げられ、いずれも5、6月の登山道での事故であったことから、残雪期の対策が必要といえる。

原因別	区分	発生件数 (件)	遭 難 者 (人)				
			死亡	行方不明	負傷	救出	計
木道上の転倒		24			11	13	24
歩道上の転倒		7			3	4	7
病気		6			4	2	6
疲労・低体温		4			2	2	4
落石		0					
道に迷い		3				3	3
雪崩・雪渓崩落		0					
落雷		0					
徒渉失敗		0					
その他		2			2		2
不明		0					
合 計		46			22	24	46

(4) シーズン別発生状況

シーズン別では春山での発生が45.7%と最も高く、特に担架等で救出された人が21件中13件と多かったことが分かる。

区分 シーズン別	発生件数 (件)	遭難者(人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
春山(4・5・6月)	21			8	13	21
夏山(7・8月)	13			8	5	13
秋山(9・10・11月)	12			6	6	12
合計	46			22	24	46

(5) 月別発生状況

月別発生では6月が14件(30.4%)、次いで7月が12件(26.1%)と多く、入山者数の多さに比例しているものと思われる。

区分 原因別	発生件数 (件)	遭難者(人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
4月	0					
5月	7			1	6	7
6月	14			7	7	14
7月	12			8	4	12
8月	1				1	1
9月	5			3	2	5
10月	7			3	4	7
11月	0					
合計	46			22	24	46

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢・性別についての記載漏れが多く、すべて不明扱いとした。

区分 年代別	性別不明(人)					比率 (%)
	死亡	行方不明	負傷	救出	計	
10代					0	0
20代					0	
30代					0	
40代					0	0
50代					0	
60代					0	
70代以上					0	
年齢不明	0	0	22	24	46	100.0
合計	0	0	22	24	46	100.0

(7) 傷病者の居住地別発生状況

居住地についての記載漏れが多く、すべて不明扱いとした。

都道府県別	区分	死亡	行方不明	負傷	救出	計
	不明			22	24	46
	合計			22	24	46

(8) グループ人数別発生状況

傷病者からの聞き取り内容として記載漏れが多く、データ数が揃わなかったため、割愛した。

(9) 傷病事故の通報状況

通報状況は山小屋や救助隊からの出動要請が23件(50.0%)、本人がビジターセンターへ移動しての口頭での通報が22件(47.8%)であった。本人による携帯電話での通報1件はアヤマ平からのものであった。

通報別	区分	通報者(件)					計	比率(%)
		本人	家族	同行者	他人	山小屋救助隊		
口頭		22				23	45	97.8
携帯携帯		1					1	2.2
電話								0
アマチュア無線								0
その他無線								0
不明								0
合計		23	0	0	0	23	46	100.0
比率		50.0	0	0	0	50.0	100.0	

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

ビジターセンターでの対応と救助隊の出動件数は22件、21件であり、ほぼ同数であった。

年度	区分	発生件数(件)	消防	救助隊	ビジターセンターのみ	一般	合計
平成8年度		16	2	4	12		18
平成9年度		33	12	20	10		42
平成10年度		49	8	33	16		57

平成11年度	55	9	28	27		64
平成12年度	70	11	18	45		74
平成13年度	46	9	21	22		52

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故46件のうち6件(13.0%)にヘリコプターを依頼し、6人を搬送した。

区分 年度	依頼件数 (件)	負傷者救助 (人)	病人等救助 (人)	行方不明 (人)	遺体収容 (体)
平成8年度	2	1	1		
平成9年度	5	3	1	1	
平成10年度	3	3			
平成11年度	5	5			
平成12年度	7	5	1	1	
平成13年度	6	6			